

- 会長挨拶 会長: 藪田和夫氏
- 総会・懇親会便り
- 電子情報フロンティア学科紹介と未来に向けて
- 新任スタッフ紹介
- 受賞(教員・学生の活躍)
- 電気工学科創立 70 周年を祝って
- 会員の近況・思い出

# 神奈川大学 電子情報フロンティア学科 同窓会会報

## 会長挨拶

会長 藪田和夫(昭和二十七年卒)  
電子情報フロンティア学科同窓会は電気工学科創立五十周年を期に電気工学科同窓会として、平成四年に結成されて以来、今年で十七年となります。この間、学科名称も電気工学科から、電気・電子・情報・通信工学分野の発展・拡大に合わせて、電気電子情報工学科へ、更に電子情報フロンティア学科へと変遷してきましたが、本年度には学科創立七十周年記念行事が実施され、新しい節目を迎えることとなりました。

この記念すべき行事にできるだけ多くの同窓生の皆様の参加をお願いするため、創立七十周年記念行事日程に合わせて、同窓会総会を開催することと致しました。当日の同窓会懇親会は学科の創立七十周年



平成 20 年 10 月 No. 16

〒221-8686  
横浜市神奈川区六角橋 3-27-1  
神奈川大学  
電子情報フロンティア学科  
同窓会  
TEL: 045-481-5661(大学代表)  
FAX: 045-491-7915(大学代表)  
E-mail: dousokai@or.tv  
http://dousokai.or.tv

年祝賀会との共催で実施されます。また、この日は大学主催のホームカミングデーが実施され、こちらへのご参加も可能なスケジュールとしております。

学科創立七十周年を期に、役員一同、学科および同窓会会員の皆様の一層の発展を願っております。会員の皆様の平素のご尽力に感謝致しますとともに、多数の皆様方のご参加を頂き、学科創立七十周年後の同窓会および学科の一層の発展のための積極的なご意見・ご提言を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 総会・懇親会便り

平成十九年度総会・懇親会は十月二十一日(日)に開催されました。総会では、(1)クラス委員の選任、(2)学科創立七十周年記念行事への協力等が承認されました。総会に引き続き開催された懇親会には藪田同窓会会長を齊藤副会長(学科主任)をはじめ、多数の会員の方、許先生、遠藤先生、大野先生をはじめ、多数の先生方が参加され、終始和やかな歓談が行われました。なお、今年度の同窓会総会・懇親会は学科創立七十周年記念行事日程、大学主催のホームカミングデーに合わせ、十月十九日(日)に開催されます。会員の皆様方の多数のご参加をお待ちしております。



平成 19 年度同窓会懇親会後に

## 電子情報フロンティア学科紹介と未来に向けて

電子情報フロンティア学科主任 穴田 哲夫  
(E-mail: andata@kanagawa-u.ac.jp)  
(昭和 44 年卒、昭和 49 年修士修了)  
フロンティア(開拓)精神にあふれた最先端技術に挑戦する研究者、国際的リーダーシップのとれる技術者の育成を目指して

電子情報フロンティア学科(2002 年電気工学科から電気電子情報工学科、更に激変する社会環境に対応して電子情報フロンティア学科に名称変更)は、1947 年に開設され、これまで一万二千余名に及ぶエレクトロニクスの発展を担う人材を社会に送り出してきた

ました。また昭和42年に大学院前期博士課程(修士)を設置、ついで他大学に先駆けて、昭和65年に大学院博士後期課程を設置いたしました。我々は、先輩教職員のこうした努力と情熱を引き継ぎ、次の100周年に向けて持続的発展を目指してがんばっていく所存です。学部教育においては、少子化、大学全入時代を向かえ、厳しい環境を迎えておりますが、いまこそ発展のチャンスと思つて時代に即した教育を心がけております。具体的には、21世紀の技術革新に対応して、地球環境にやさしい新エネルギー開発から高度情報化社会の根幹を担っているコンピュータ技術を基礎として、電子・光デバイス、システム制御、情報通信に関するハードウェア及びソフトウェア技術の基礎から応用まで、幅広い知識と技術を教授し、企業の第一線で活躍できる技術者・研究者の育成を目指しています。電子情報フロンティア学科で電気・電子・通信・情報工学について基礎から応用まで、ハードからソフトウェアまで、未来に向けて自らの「知能力」、「デザイン力」を磨き、未来に向けて挑戦できる能力を身につけて欲しいという考えのもとに電子情報フロンティア学科と改名いたしました。この学科名称に関しては、21世紀においても社会の中心の大学でありたいという思いのもとに改名いたしました。

**エネルギー・制御系の研究・教育の守備範囲**

次に当学科の4つの研究・教育分野について簡単に説明いたします。現在、4つの研究分野に対して16研究室、26名の教員、6名の専門技術者が、次の分野の教育、研究を担当しております。

省エネ技術、知能ロボット、電気自動車などの高度な制御、燃料電池の開発などに取り組んでいます。

**デバイス材料系の研究・教育範囲**

量子力学が支配する分子原子レベルの物質設計から半導体デバイス・光デバイス、大規模集積回路の設計、移動無線通信、光ファイバ通信、音波・生体・医療などの研究開発を行っています。まさしく21世紀型の研究者・技術者としてさまざまな領域で世界に通用する人材の育成を目指しています。

**情報・通信系の研究・教育範囲**

高度情報化社会を支えるソフトウェア技術、信頼性・安全性が高く、すべての人が安心して恩恵を享受できる情報システムを実現するために、セキュリティ・ネットワーク、デジタルマルチメディア、ヒューマンインタフェースに至る総合的な基礎教育を行っています。

**ライフサイエンス系フロンティア領域の研究・開発範囲**

ハードウェアとソフトウェア技術の融合した新しい技術を発想・創出し、医療画像診断、超伝導による脳センシング、音波による生体センシング、生体熱利用デバイスなどの開発といった未来志向の研究・開発に取り組んでいます。まさしくフロンティア(開拓者)精神にあふれた独創性と国際感覚を持つ開拓精神を育む教育を心掛けています。

今年度、当学科は七十周年を迎えます。是非、企業の第一線で活躍されている卒業生の諸先輩のご支援の程よろしくお願いいたします。また忌憚のないご意見などお待ちしております。さらに神奈川大学の工学研究所を中心に研究員制度、研究教授などの制度を立ち上げ、卒業生の参加を期待しております。

**○新任スタッフ紹介**

○鈴木一弘先生(2005年茨城大学大

学院工学研究科 情報・システム科学専攻修了 博士(理学)が特別助手として採用され木下研究室に配属、電気電子情報工学実験2を担当されます。

○石田直美さんが今年2月から能登研究室に嘱託職員として配属されました。

**受賞**

○小松隆、齊藤隆弘、「正則化法による超解像REGDOEデニング」電子情報通信学会2006年画像符号化シンポジウム(PCSI)2006/2006年11月

○石井勇樹君(修士2年)が映像情報メディア学会の2007年冬季大会において学生優秀発表賞を受賞しました。題目「モザイク画像の非線形画像分解とその応用」2007年12月18日発表

○内藤史貴君(遠藤研究室修士1年、現修士2年)2007年度海洋音響学会研究会発表会ベストポスター賞を受賞しました。題目「目が付着した鋼管杭の板厚計測法の開発」送受波方式の検討

**電気工学科創立70周年を祝って**

**・学問のすすめ**

岡 圭介(昭和41年卒)

今年、電気工学科は創立七十周年とのこ

と、おめでとう御座います。創立に携わった先人達はどんな「志」で電気工学科創立に伴う「苦勞」を乗り越えられたのでしょうか? その当時(即ち昭和十年代)の世相は、所謂日中戦争(十五年戦争)が始まり、先行きの見通しが不透明な時にも拘らず、先人達は我が国の将来あるべき姿「技術立国日本」を夢見て、若人の電気技術教育が必須との情熱エンジンがその困難を凌駕したのではないかと想う時、その後輩である自分は先人達を誇らしく思うと同時に、現在の自分の立ち位置を恥ずかしく思うばかりです。

創設後七十年間、これまで脈脈と継続して育てた電気技術者は1万2千人余とのこと。継続が如何に難しいかは、企業経営において「企業」の目標は Going Concern(即ち継続する)と云う言葉の通り国・企業・組織・団体など「人の集団」の継続が如何に難しいかを言い当てています。それほど困難なことを我が神奈川大学の教職員・先輩諸兄は情熱を持って継続させていることに唯々敬意と感謝するばかりです。

過日、大学教授・研究者や経営者の会議

平成18年度神奈川大学電気電子情報工学科同窓会収支

2006年10月1日～2007年9月30日			
取 入	支 出		
会費 2000円x192名 3000円x1名 5000円x1名	392,000	通信費 総会案内・会報郵送費 (477通) 返信ハガキ 500通x50円 幹事会開催案内郵送費 17通x80円	42,540 25,000 1,360
預金利息(4月1日)	2,308	印刷用消耗品費 封筒(600枚) A3用紙(500枚) プリンタラベル ステッキのり	7,491
懇親会黒字	27,936	レンタルサーバー代 会合費	8,820 535
平成18年繰越金	3,473,146	次年度繰越金	3,809,644
収入合計	3,895,390	支出合計	3,895,390
収入合計-支出合計			0

平成19年度神奈川大学電気電子情報工学科同窓会予算

平成19年10月1日から平成20年9月30日まで (単位円)			
取 入	支 出		
会費	350,000	通信費	620,000
預金利息(4月1日)	3,000	印刷費	220,000
		郵便料金受取人払い 会合費	26,000 2,000
		レンタルサーバー代	8,820
		事務用品 懇親会(予備)費	5,000 50,000
平成18年後期19年前期繰越金	3,809,644	次年度繰越金	3,230,824
収入合計	4,162,644	支出合計	4,162,644
収入合計-支出合計			0

終了後の懇談の席で電気技術者育成に関する意見交換がありました。成熟したこの学際若人に魅力がないのではないかとこの意見がありました。一体そうなのではないでしょうか？

確かに、現代世相がファッションブルで拝金主義的な風潮から、原理原則や基礎基本を重視する電気工学科は忌避される傾向があることは否めない事実ではあります。

1980s 我が国は団塊世代に代表される先輩諸兄の努力の結果、漸くグローバルにトップレベルにキヤッチアップしました。その後、世界に学ぶものは何も無いなどと嘯きました。今の日本の状況は、例えば国民一人当たりのGDPは世界14位等如何でしょうか？

欧米各国は固より BRICS の成長の源泉は決して原理・原則や基礎基本を軽視して成り立っているものではないことは周知の事実です。即ち、グローバル化した現在我々は国内的視点のみに捉われるのではなく、グローバルな視点から再度原理原則や基礎基本を徹底すべき時期にきています。

例えば、就職に際して TOEIC の Score500 は必須ですから日常の授業での原書使用は当然でしょうし、輪講も Communication や Presentation には必須の科目ですし、院生なら学会支部への論文投稿も自然な学習行為でしょう。勿論数学的基本事項 例えば電検2種程度はクリアすべきごく初歩的な必須事項です。これら基本事項の習熟には王道しかありませんからひたすら日常の学習が全てです。

拙ない海外経験からしても彼らの基本基礎・原理原則に関する理解度は極めて高く、それに基づく応用技術には目を見張るものがあります。社会経験のある我々も自覚して支援する所存ですので、教職員・学生がグローバルな視点に立つて「学問のすすめ」の

再構築を進め電気工学科の更なる発展に繋げようではありませんか。 以上

### 「近況」

武尾英哉

(昭和36年卒・昭和32年修士修了)

工学部電気工学科を昭和36年に卒業、工学研究科電気工学専攻を昭和32年に修了した武尾英哉です。私は大学院修了後、富士フイルム株式会社に入社し、平成13年3月までちょうど20年間勤め、現在は神奈川工科大学工学部電気情報工学科で准教授をしています。また今の大学教授という職は2年半しか経っていませんので、企業人としての経験や実績の方が圧倒的に占めています。企業人時代は、医療機器分野のデジタル画像処理およびシステムの研究開発に従事していました。今から約30年前の時代ですが、すでにデジタル画像やデジタル信号処理の医用画像利用について行っていました。もちろん、またデジカメも携帯電話もない時代です。ちょうど学部・大学院での研究室が、今でも本学で活躍の齋藤隆弘教授の研究室で、同じく画像処理の研究をテーマにしていますので、そのまま会社に入ってから同じ研究分野であったことは非常に希であり幸いです。しかも会社時代の20年間は、一貫して画像処理という研究開発テーマでした。会社時代に最もやりがいを感じたのは、自分が作った処理やソフトウェアが商品化されて市場で使われ、ユーザから良くも悪くもフィードバックが得られるということだったと思います。特に、この処理は「役に立つ」と言われた時に喜びは、開発したものにかわらない感動だと思います。また、縁があつて共同研究先の大学の先生の誘いもあつて、会社職中に社会人博士による大学院課程博士への進学を薦められました。会社でも国内留学制度というものがあつたの

で、それを利用して通学し、学位を取得することができました。その後、これまでの研究実績と博士の学位取得を生かして、現在の大学教授になることになりました。まだまだ若い研究室ですが、現在は、大学院生4名、研究生2名、卒研生9名の合計15名のメンバーで構成され、医用画像工学、デジタルシネマ動画、一般フォト画像(デジカメの画像)といった3分野の画像処理の研究をこつこつと行っています。将来は、齋藤先生の研究室に少しでも近づけるよう、日頃も時々、「齋藤先生だったらどう考えるだろうか？」などと思いつながら研究を進めています。最後に、参考までに私の研究室のホームページ  
(<http://www.ele.kanagawa-u.ac.jp/~takeo>)と研究室メンバーの集合写真を紹介します。

### 「ある日の会話」

川端 美杉 平成12年卒、平成14年博士前期課程修了、平成17年博士後期課程修了

田中 亮子 平成12年卒

田中：卒業して〇年、2人とも同じ辻野研究室で超音波プラスチックの溶接技術向上について研究していて……まさか会社も同じになるとは学生の時には思ってもなかったよ。

川端：本当、まさか2人とも同じ会社に入るとはね。

田中：美杉は最初から自動車メーカーに就職するのが希望だったの？

川端：そうだよ。自動車って言うかモノを造りたくて、そのモノを造ったことが実感できる所に就職したかったんだ。亮子は？

田中：私も自動車メーカーが第一希望だったの。思い描いているモノが実際商品になる楽しみと、その商品に共感して買ってくれるお客様の喜んでる姿が見たい！車つて幅広い分野が集結しているから、工業

製品として一番面白そうだなって思ったの。川端・田中：私達って似たもの同士だね(笑)川端：同じ会社なのに会社では一度も会ったことがないし、プロジェクトでも一緒になかったことないし、亮子のやつてる女性視点ってどんな仕事なの？

田中：私の仕事は、一言で言うと、女性のお客様に「この車いいね♪」って共感してもらって買ってもらえる車を造ることなの。

川端：あつ、最近 発足した女性の開発グループで亮子の居る所なんだ。具体的にはどんなことをしてるの？

田中：車種ごとに設定されている女性のターゲットカスタマーが『どんな価値観を持っているのか』『どんな車の使い方をしているのか』などを調べて、それらを車両開発の目標にするの。

川端：それって車庫入れの苦手な女性でも、日産の車だったら車庫入れが苦手じゃなくなつた！運転が上手くなつちやつた、みたいな技術開発をすること？

田中：その通り！ 車造りって男性主流な上に車が好きで運転には自信があるっていう人が主流だったから、こういう視点に欠けているところがあつただけど、女性の意見が入ることで、今まで見落としがちだった女性ならではの使い方や苦手な運転操作なんかを把握して車造りに取り込むことで、より多くのお客様に満足していただける車を造ってるわけ。

川端：そうなんだ。最近、うちの会社に限らず、いろんなところで女性の意見を反映させた商品やサービスが多くなってきたもんなね。

田中：そうだね。男性と女性って結果は同じように見えても、その過程における感じ方が違うから、こういう取り組みは重要なんだよ。ところで美杉は、どんなことをしてるの？

川端：私の部署は、機械工学・材料工学・冶金工学・電気工学・無機化学・応用化学などの知識と技術を活かして、高品質な製品を低コストで量産するための生産設備の企画・工程设计・導入と、生産設備および型治工具の設計・製作・工場設置を短期間で実施するのが主な仕事。成形技術、プレス技術、車体生産技術、車両組立技術、部品品質技術、樹脂・塗装技術、先進車両生産技術などいろいろなグループがあって、現状の生産技術で生産できない場合には、新たな生産技術を開発するんだ。

田中：車体構造の肝になる技術を作ってるんだね。さすがに博士号を取ったから、大卒で研究していたものをちゃんと活かしてるね。

川端：ちゃんと活かされてるかわからないけど、超音波溶接も工法の一つとして活かしているよ。

田中：これから社会に出る学生には勉強をして学力をつけてもらうことはもちろん大切だけど、それ以上にモノを造る創造力を養ってもらいたいな。妄想でいいんだよね。学生生活は自由な時間がたくさんあるから、時間を上手く使ってるんならいい、感じていつてほしい。私はもちろん日々創造力を豊かにするために、車とは関係ないモノに出会って感性を磨くようにしてるんだ。

川端：うん。そういうの大切！それに、会社に入って思ったんだけど、大学と企業が一緒になってモノを造りだす方向に向かってくれるのもっともっと良いモノが造れると思うんだけどなあ。

共同研究みたいだね。神奈川大学もつと企業にアピールしてがんばってもらいたいね。田中：そうだね。こういう活動を活発していくことで、工業大国！日本！としてエンジンアがもつと育っていくと思う。神奈川大学は

その一助になつてもらいたい。  
川端・田中：これからも卒業生として誇りを持って神奈川大学であつてもらいたいね。  
**会員の近況・思い出し**  
〔平成19年度の葉書(通信欄)他から〕

○1. 4月から台東区立浅草公会堂、中央監視室で「ビル管」をやっています。

2. 箱根にはS29主務、S30年主務兼ランナー(7区)の経験から仕事現役以後からフルマソン、ウルトラマソン等、長いものに憑かれて、夢の島や平塚での「24時間マソン」では、最年長の常連で気を良くしています。

3. 今年の第1回東京マソンは抽選でモれましたが、来春のはゲットしました。ランナーズ(マソン)の月刊誌の「1才きざみランキング」で20位以内に入るのが目標です。

4. それ迄の予定は、まず本10/21。第36回タートル(荒川)ハーフ。11/25。第32回河口湖(フル)。12/16。東京10K。クリスマスマソン(昭和公園)。1/3。谷川真理ハーフ(荒川)。2/3。第2回青梅マソン(30km)。の予定です。「昭和30年卒山崎善高」

○神奈川大学を卒業して早や40年余り、電子部品一筋に歩んできました。神大の新卒者も入社して活躍しています。御陰様で会社も町工場から上場企業に育てることができました。今は第一線を退き、高所大所から経営を見えています。最近健康のため、地元の横浜カントリークラブで毎週ゴルフをしています。「昭和40年卒白井一夫」

○JABEE認定「苦労様です。技術士試験の受験資格の一つにJABEE認定高卒業者以外は1次試験から合格しませんと二次は受験できないと聞いています。「昭和24年卒白井齊」

○長崎大院後期課程の3年目です。今月末のローマでの学会発表と学位論文作成に追われています。来年こそは出席させていただきます。「昭和40年卒松尾攻」

○遠隔地でなかなか簡単に出席できません。会報等でくわしく情報をお知らせください。高齢者の仲間入りですが、元気に過しています。皆様方のご活躍を祈ります。「昭和35年卒日高誠」

○昨年4月退職も同じ職場でアルバイトをしています。初めての海外旅行として中国西安・北京に行ってきました。「昭和47年卒田口保雄」

○おかげさまで元気に生きています。毎回の案内有難うございます。「昭和29年卒内藤隆文」

○来年は総会・ホームカミングデイに参加したいものです。「昭和33年卒高橋保彦」

○私は84才だが、母校からのこうした便りがうれしい。「昭和18年卒矢内仁」

○37年卒同窓会連絡先がわかりましたらおしえてください。「昭和37年卒三澤紘彦」

○介護に療養の応援に忙しい毎日を送っています。「昭和33年卒鈴木莊泰」

○母校の発展を祈っています。今年67才になり自適な生活をして、元気に暮らしています。「昭和40年卒村井正」

ボタ体育館で全日本居合道・秋季全国大会があり、協議役員のため、大学へ行けなくなりました。残念です。「昭和32年卒村橋恒夫」

○御案内ありがとうございます。私も卒業以来丁度60年になるので是非と思いますが都合悪く所要等の為不悪皆様よろしく。「昭和22年卒高田至康」

**同窓会からのお知らせとお願い**

・会費の払い込みについて  
平成20年度会費を同封の払込用紙で郵便振替口座(00200-8-42851)にお振り込みください。年会費2千円で、その際卒業年月、1部・2部・短大・大学院を必ずご記入ください。本同窓会は神奈川大学の同窓会であり「神宮陵会」とは別組織となっております。その点をご理解して戴き、ご支援・会費の納入をお願いいたします。

・現住所等の連絡について  
住所変更がありましたら同封のハガキ、FAX:045-191-7915、Email: neokan@karagawa-u.ac.jpまたは会費払込の際に通信欄にてお知らせください。本同窓会会員の住所は「神宮陵会」のデータに基づいておりますので住所変更等の連絡は、どちらかにお願いたします。また、会員皆様のご意見、ご要望、近況をお待ちしております。今後とも会員皆様のご支援の程よろしくお願致します。

・役員・クラス委員・支部長の推薦のお願い  
同窓会では役員、支部長(北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州)、クラス(年度)委員の推薦をお願いしております。自薦、他薦いずれでも結構です。連絡をお待ちしております。